

見直そう環境と生活

～親、家族の役割とは～

1 テーマについて

荒屋小学校は小松市のはずれ、能美市に隣接した地域にあります。児童数約160名、田園が広がるのんびりとした小さな学校です。子供達もののびのび明るく学校生活を楽しんでいます。



そんなのんびりした地域に住んでいる、あるお父さんが、前日の晩におきたケンカの一件を役員会でグチりだしたことがきっかけでした。
そのケンカとは？

母

最近ガソリン代も高いし、今日からビール小さいがやしね。

父

そりゃねーやろ！でかいがに戻してまっ！

母

ほんなら、あんなだらな運転せんと、少しは節約考えてまっ！

父

何ゆうとれんて！お前も茶碗ある時、水出しっぱなしやがい！たのむふやして(泣)

ビールがもっと欲しいという夫婦の不純なケンカの中から、いろいろな疑問がわいてきました。

昨年度より荒屋小学校では環境の見直しや生活改善に関して、いろいろ取り組んでいましたが、育友会の中で実感として、そんな疑問がわいてきたのは、これがはじめてでした。

そもそも、ガソリンという天然資源や蛇口をひねれば当然のように出て来る水に対して、わたしたちはどれほどの意識をもって使用しているのでしょうか？そう考えると、わたしたちは生活の中で無意識にこんなことをしているのではないのでしょうか？

例えば…

「お風呂にはいって頭を洗う時シャワーを出しっ放しでつかっている」

「電気をつけっぱなしにして部屋を出る」

「テレビをつけっぱなしにしてダラダラ見ている」

「食事の時、食べ物を残す」などです。

ちょっと
昔

そういえば、昔よくこんなことをおじいちゃんやおばあちゃんから言われたことを思い出しませんか？

水道の水を出しっぱなしにしていると…
「あつたらもんや～
はよ、止めよ！」

テレビをずーっと見ていると…
「ダラダラ見とらんと
消そっ！」

ごはんが少しでも残っていると…
「あつたらもんや～
残さんと食べよ！」

ちょっと昔は、そんなこと
当たり前だった気がするな…

家族に注意されながらも、そこには毎日のきちんとした生活習慣があった。

それが、そのまま今の言葉で言えばエコにつながっていた。

今

それでは今、この荒屋小学校の現状はどうなっているのでしょうか？

テーマ
決定！

- 環境を意識することにより、生活習慣の改善につながるのでは？
- ちゃんとした生活習慣が環境を守ることにつながるのでは？

みんなで「環境」と「生活」を見直してみよう！
そして、取り組んでみよう！

まずは手探りで取り組もう！
大きな木になればいいな

「環境」と「生活」の2本の幹を
中心に取り組んでみよう！

「環境」に関する取り組み

県民エコチェックの利用
水まわりエコチェック第一弾
水まわりエコチェック第二弾

「生活」に関する取り組み

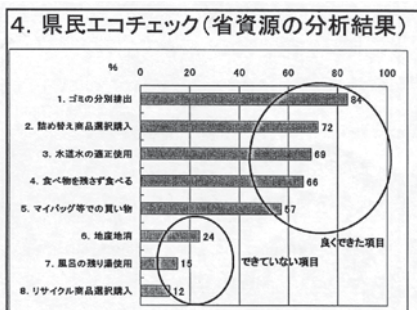
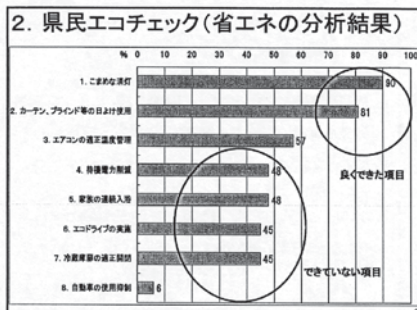
早寝早起き朝ごはん
生活習慣アンケートの利用
テレビに関する調査

2 環境についての取り組み

◆県民エコチェックキャンペーンの利用による取り組み

平成20年の夏休みに石川県よりエコチェックキャンペーンの案内が届けられました。いろいろな質問事項もあり、手探りではありますが、これにより少しでも環境への意識が高まるかもしれない、子供達の環境への思いもわかるかもしれないとのことから、これを利用してみることにしました。児童全員とその家族のみなさんが参加し熱心に取り組んでくれました。

みんながんばって
取り組みました。



その結果、いろいろなことがわかりました。省エネに関して言うと、石川県全体と比較して、本校の児童の家庭では「こまめに消灯」という意識が非常に高いということがわかりました。

また省資源に関しては、ゴミの分別やリサイクルの意識が非常に高いこともわかりました。これは荒屋校下や各町内会そして地域が一体となって清掃ボランティアに取り組んでおり、その意識の高まりも大きく影響しているのではないかと思います。

ただ、このエコチェックは、その質問項目が非常に多く多岐にわたるため、焦点がぼやけてしまいわかりにくいという声がありました。そこでよりチャレンジ項目を絞った新たな取り組みを考えようということになりました。



より分かりやすい取り組みが必要だと思う。

◆講演会や劇により環境への意識を高める

一方でより環境への意識を高めるために「教養講演会」や「リトルパインシアター」を行いました。テーマはもちろん環境です。寸劇により「地球の色、未来の色」についてのパフォーマンスがありました。児童の心にも、また一緒に参加した親にも環境についての課題がきっと心の中に残ったはずです。



興味深い内容で
いっぱいでした。

みんな、舞台に
夢中でした。

環境への意識
の高まり

「環境」に関する取り組み
県民エコチェックの利用
水まわりエコチェック第一弾
水まわりエコチェック第二弾

講演会

劇

いろんな環境への取り組みにプラスして
講演会や劇を行うことにより、さらに意識を
高めました。

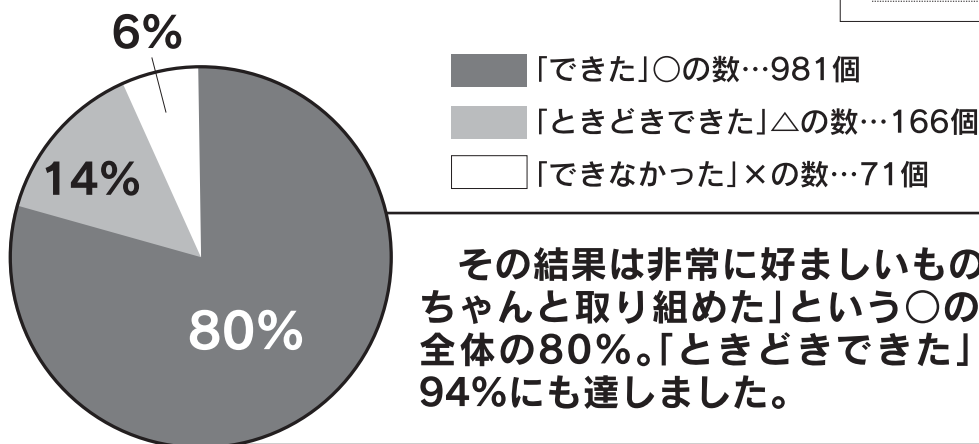
◆水まわりチェックによる取り組み

県民エコチェックをただ利用するだけでは焦点がぼけて分かりにくい、そんな思いから、新たな取り組みへ。

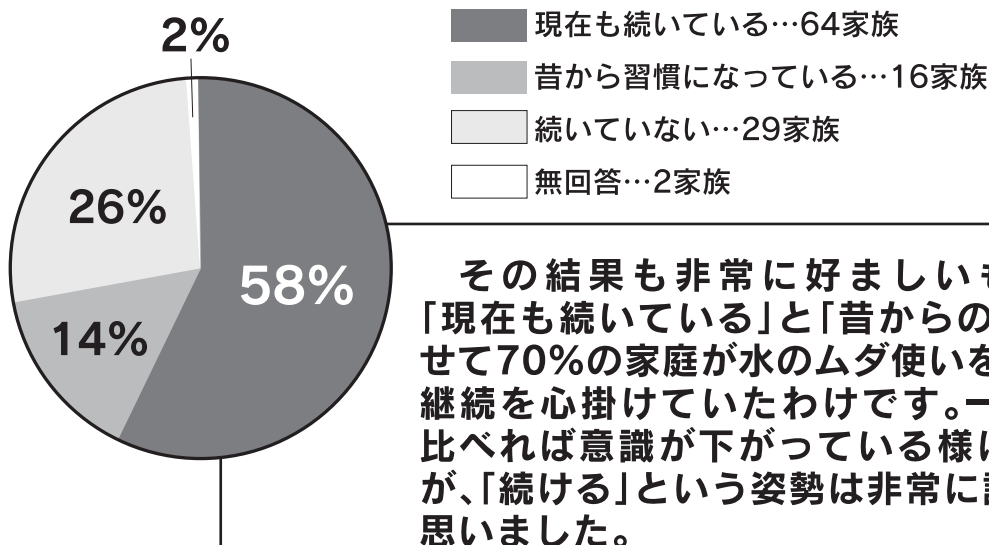
次の段階では、より分かりやすく、日常生活の中で家族一丸となって協力しあってできることはないかということにポイントをしばって取り組んでみました。家族がバラバラに取り組むのではなく、同じ目標で、ある時は子供達に注意し、またある時は子供達の行動に親が学ぶ。そんな取り組み方法を考えてみました。それが…

水まわりエコチェックです。

例えば「歯磨きの時、水をこまめに止める」などです。できたら○、ときどきできたら△、全然できなかったら×というふうに毎日チェックしてもらいました。最後にその感想や気付いた事を書いてもらいました。



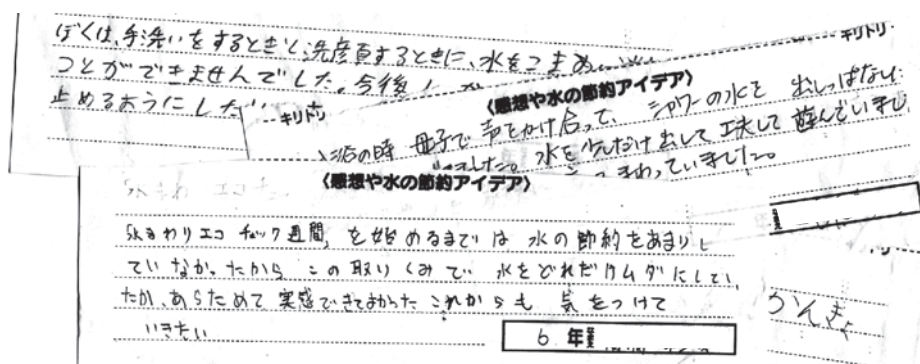
その結果は非常に好ましいものでした。「毎日ちゃんと取り組めた」という○のついた日数は全体の80%。「ときどきできた」をあわせると94%にも達しました。



その結果も非常に好ましいものでした。「現在も続いている」と「昔からの習慣」をあわせて70%の家庭が水のムダ使いをしないよう、継続を心掛けていたわけです。一見、第1回に比べれば意識が下がっている様にも思えますが、「続ける」という姿勢は非常に評価できると思いました。

例えば、

- 「水まわりエコチェック週間を始めるまでは水の節約をあまりしていなかったから、この取り組みで水をどれだけムダにしていたかあらためて実感できてよかった。」
 - 「チェックをしてみたら、意外と水をとめていなかったりしていたことが分かってびっくりしました。これからは手とかを洗うときに気をつけます。」
 - 「家の人が歯磨きをしていて、水を出しっぱなしにしていたダメだなと思いました。だからあわてて水を止めました。」
 - 「エコチェックをすることによってエコを心がけるようになった。」
- など、非常にエコに対する意識を深めた良い感想がありました。



3 生活改善についての取り組み

◆生活習慣チェックシートの利用による取り組み

参考にしたのは市P連から配布された早寝早起き朝ごはんの生活習慣チェックシートです。生活習慣をちゃんとすることがエコにつながっていくという観点から、まずはひとりひとりの習慣を知り、生活改善の第一歩として実施しました。

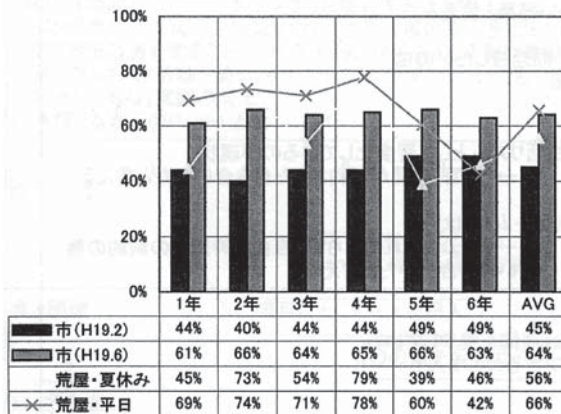
「生活習慣」「食と団欒」「自主・自立」「規範・ルール」という4つのポイントに絞って児童とその家族全員が参加しました。

[illegible]

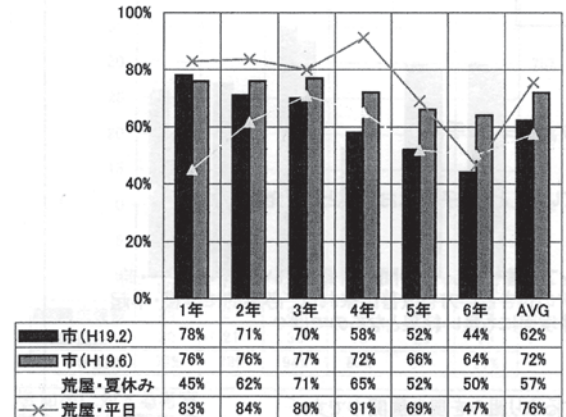
生活習慣も総じて良い結果でした。

しかし、その取組みの中で気になる問題点が浮かび上がってきました。

●メディアは2時間以内(学年別)



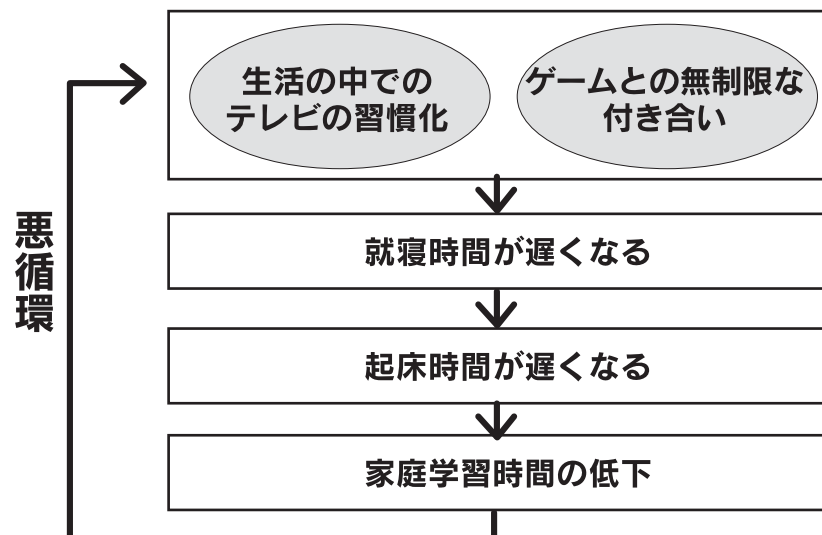
●朝は自分で起きた(学年別)



問題点

- 「メディアは2時間以内にする」という取組みの学年別比較で5年生と6年生が他の学年に比べて悪い。それは市全体と比べても悪い。
- 決められた時間に寝るという項目でも高学年ほど悪くなる。
- 朝自分で起きるという項目でも高学年が悪い。

◆高学年のメディアによる悪循環の流れ



テレビは生活の中で習慣化しており、またゲーム、インターネットは、時間の制約がテレビ以上にないため麻薬的な要素もあり、限りなく時間を費やしてしまうものです。始めるのが本人ならセーブするのも本人というのがメディアに接する児童達の現状でしょう。自分でセーブできなければ寝る時間が遅くなります。その結果、朝自分で起きられなくなる。それは当然、家庭学習時間の低下を招いていると思います。

そこでわたしたちは思いました。

子供達のメディアとの関わりを見て、
私達親は何をしているのかということです。

テレビを時計代わりにつけている。

テレビをただダラダラ見ている。

テレビやゲームを
子供のお守役としている。

ひよつとするとこんなことにな
ってないでしょうか？
耳の痛い結果です。

4 成果とこれからの課題

この取り組みを通して荒屋小学校の児童とその家族は思った以上に熱心で特に環境に関しては意識が高いと感じました。生活に関しても、朝はちゃんとご飯を食べ、生活のリズムや規範ルールに関しても好ましい結果でした。

生活をきちんとおくる、それはとりもなおさず環境につながっていきます。昔、資源や食料そして時間、すべてが限りあるものでした。だからこそ大切にしていました。そして、その思いが生活の中に息づいていました。今は経済的にも豊かになり全てがお金を出せば買える時代です。しかし物に限りがあることは昔も今も同じです。だからこそこれらの取り組みはこれからも長く続けて行かなければなりません。

一方であらためて浮かび上がってきたものがあります。親としての役割と家族としての役割です。親は本当に子供達の手本となっているのでしょうか？また、親は子供達に言うべき責任から逃げてはいませんか？ということです。そして親も未熟なら一緒に家族で取り組もうという姿勢です。

この姿勢がなければ荒屋小学校育友会の取り組みも意味がありません。

今回ある家族の行った取組みと感想です。

「悲しいことやけど、人は思いやりとすべての物事に感謝の気持ちを忘れているように思われる。その為ある人は今ある自然が永遠に続き、たとえ自然が無くなっても誰かが何とかしてくれると思込んでいるかのように、自己の利益を追求し自然を破壊し続けている。自分はそんな人間になりたくないと思ったので、小さな事からこつこつとやっていける自然に優しいことを考えてみたが、情けないことに下記の事しか思い浮かばなかったが実行することにした。

一つ、コンセントを抜くことで待機電源をなくす。

一つ、去年の夏、我が家は冷房禁止

しかし1ヶ月ちょっと夏場、冷房禁止を家族で実施することで家族の絆、また団結心を深められ、またエコに対する意識が向上したと感じられ嬉しかったです。」

こんな家族がひとつでもふえるよう、これからも「環境」「生活」の改善に取り組んでいこうと思います。それは子供達の学力だけではなく、豊かな成長にも必ず結びつくはずです。